

プロジェクト名	スピリチュアリストの聖職者とその降霊術に関する調査研究		
プロジェクト期間	平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	レオナルド T. J. (国際共生教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法および 取組実績の概要	<p>2011 年に福岡教育大学からの助成金を頂き、正式に叙任されたスピリチュアリストの聖職者における信仰と社会的背景、その職務、そして、聖職者になるという「召命」を彼らが持つに至った環境に関する包括的な調査を実施した。これらの多くの部分は聖職者への詳細なアンケートと面談を通じて行われた。助成金では米国で現地調査を行うための旅費、そして研究のための実証的なデータの収集の経費を賄うことができた。本研究の調査データは主に 10 ページの質問票を用いて収集した。これはスピリチュアリストの聖職者の「宗教的な」生活に即した項目と、正式な聖職者として教会から叙任を受けるとい意思形成に何らかの直接的な影響を及ぼした彼らの生い立ちに主眼を置いている。</p>		
研究成果の概要	<p>宗教、科学、哲学としてのスピリチュアリズムは、雑多なムーブメントから紛れもない宗教的な伝統へと姿を変えてきた。この現代の宗教的ムーブメントの中心にあるのは聖職者である。彼らは神の召命に応じて霊的な導きを必要とする人々に奉仕し、何らかの「霊媒」的な方法で、霊的なコミュニケーションを提供してきた。この能力を持つとされる正式なスピリチュアリズムの聖職者は、多彩な宗教的背景の中で成長していることがデータ収集と実証研究の過程で判明した。これは主にキリスト教を基盤としたものであるが、宗教としてのスピリチュアリズムを受け入れる前には、彼らはさまざまな信仰体系に従っている。本プロジェクトでは宗教、霊媒としての役割、そして聖職者自身の民族宗教学的側面に主眼を置き、米国における最近のスピリチュアリストのムーブメントに関して収集された膨大な量のデータと調査も一次的/副次的資料として利用したうえで、ケーススタディと実地調査を行った。まず 100 名のスピリチュアリストの聖職者を調査し、うち 62 名から返答を得、最終的には 54 名が本研究のデータ収集に同意した。若干数の聖職者が面談を通じてさらなる調査データを提供した。本研究の目的は、現代のスピリチュアリストの聖職者がスピリチュアリズムの中で成長したのか、あるいはもっと主流の宗教から改宗したのか、そしてそうだとすれば、聖職者として奉仕するよう彼らを促した因子にはどのようなものがあるのかを判別することであった。同じく、彼らに「召命」、すなわちその職を求める内面的な衝動があったのか、そしてそれは神が導いたものなのかの判別も目的に含まれる。本プロジェクトはこれらの問いに答えるだけでなく、データをグラフ化し、スピリチュアリストの聖職者とその霊媒としての役割に関する現代の傾</p>		

	向を視覚的に説明する。		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について			
外部資金獲得 申請（予定）	未定	研究成果の 公表方法（予定）	福岡教育大学紀要 その他論文2本，発表2回